

# 平成26年度 学校自己評価システムシート（県立浦和高等学校 定時制課程）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く青年の育成
--------	----------------------

重点目標	1 組織的・系統的なキャリア教育・進路指導を通じ、生徒を将来展望に基づく進路決定に導く。 2 基礎学力の定着を基盤に、進路実現につなげる主体的な学習意欲を高める。 3 多様な教育活動を通じ、社会の一員としての自覚と責任、主体的行動力を育成する。 4 組織的かつ計画的に、開かれた学校づくりを進める。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	6名

学校自己評価					年度評価（3月1日現在）		
年度目標					年度評価（3月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の将来や卒業後の進路選択等に対する展望が不十分であり、積極的な進路意識を持っていない生徒が多い。生徒に将来への希望を持たせ、意欲的な進路決定に導くことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を展開し、将来を考える進路指導を充実させる</li> </ul>	①段階を踏んだ4年間にわたる進路指導体制を整える。 ②上級学校や企業等の見学機会を充実させる。 ③生徒への定期的な求人情報の提供など、アルバイト等の就労を積極的に支援する。 ④生徒に対する進路に関するアンケートを実施する。 ⑤若者育成のための企業との連携体制を充実させる。	①学年ごとの目標を踏まえた4年間の進路指導計画を作成 ②新たな見学機会を提供 ③生徒の就労率65% ④90%以上の生徒が「自分の進路について考えている」と回答 ⑤新たな協力企業を開拓	新たな目指す学校像の策定を皮切りに組織的・系統的な指導体制づくりが進み、様々な教育活動の運動性が高まった。 ①4年間の指導計画を含めた本校の進路指導ノートを初めて作成 ②修学旅行にて企業見学を実施 ③就労率52% ④回答73% ⑤新規連携企業1社	A	本年度作成した進路指導ノートの活用を実践しつつ、内容を充実させ「進路指導の手引」として発展させることが課題である。 LHRの計画的活用と継続的な進路指導部による検討により、組織的かつ体系的な指導体制の構築を進め、生徒の進路意識向上に取り組む。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒にとって、基礎学力の定着や向上が必要であり、学力差も大きい。個に応じた学習指導の工夫により、生徒の学習意欲の向上と主体的な学習姿勢を引き出すことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を大事にする意識を向上させるとともに、個を伸ばす学習指導を充実させる。</li> </ul>	①学習サポーターの活用やティームティーチング・グループ学習の導入など、魅力ある授業の展開を工夫する。 ②授業前後や長期休業中等の補習を実施する。 ③生徒に対する学習に関するアンケートを実施する。 ④多様な生徒に対応するための特別支援教育体制を充実させる。	①各授業において、「新たなチャレンジ」を実践 ②年間90日以上実施 ③90%以上の生徒が「授業にしっかりと取り組んだ」と回答 ④定期的に特別支援教育コーディネーターと連携し、新たな教材を活用	授業の工夫に加え、非常勤講師・学習サポーターを極めて有効に活用でき、学習指導の質の向上につながった。 ①協調学習や個別の英会話の実施などの新たな取組を実践 ②日常的（ほぼ毎日）に始業前の個別補習を実施 ③回答91% ④浦和特別支援学校と連携し、特別支援教育用教材を活用	B	生徒の意識を一層授業に向けさせるため、学校全体で「授業を大事にする」意識の醸成を図ることが課題である。 生徒個々の学力の状況に応じた「やる気」を引き出すため、現在随所にみられる授業改善や内容充実の取組の発展・拡大を進める。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感の不足や社会との結びつきへの意識の欠如などから自分に自信が持てず、あらゆる面で主体的な行動を起こせない生徒が多い。多様な経験を通して、生徒に自信を持たせることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解を深め、集団との関わりを常に意識する多様な教育活動を充実させる。</li> </ul>	①各種学校行事において、生徒の主体的な活動場面を提供する。 ②モラルやマナーを重視し、公共心を意識させる生徒指導を徹底する。 ③保健指導や給食指導等を通じて自己の健康や生活改善を意識させる。 ④学校周辺清掃活動に対する生徒の関心を高め、参加を促す。	①学校行事の運営等において生徒会が関わる場面を新たに創出 ②毎日の巡回指導と定期的な生徒指導講話を実施 ③90%以上の生徒が「自分の健康を大切にしたい」と回答 ④1回平均参加率20%以上	各種行事等において、これまで以上にねらいを明確化するとともに、新たな視点での工夫に取り組み、生徒の積極的な参加意識の向上につながった。 ①2学期末に新たな生徒会行事を実施 ②年間を通じ登校時の声掛け指導を継続するとともに学期に2回の生徒指導講話を実施 ③回答88% ④1回平均19%	B	各種教育活動を通じ、生徒の学校に対する意識は高まっている一方、集団とのかわりや集団への寄与などについて、まだ十分とは言えず、生徒たちに社会人として重要な「公共心」を身に付けさせることが課題である。 今後、生徒たちが、受動的に参加するだけでなく、一層しっかりと考える行事づくりに取り組む。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や近隣中学校に対する情報発信は充実しつつあるが、両者ともに本校への関心の高まりは不十分といえる。より魅力的な情報の提供が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信を基盤に保護者や中学校との連携体制を構築する。</li> </ul>	①保護者向け公開行事等において、保護者交流会を実施する。 ②2回の中学校訪問を活かし、中学校との連携体制の構築を図る。 ③保護者対象のアンケートを実施する。 ④学校ホームページを積極的に更新する。	①全校保護者会に前年度を上回る数の保護者が参加 ②授業公開における前年度を上回る数の中学校関係者が来校 ③20%以上の保護者が、「保護者会等に参加したい」と回答 ④1週間に1回以上の頻度で更新	保護者会や公開行事への参加者数や中学校と連携した生徒対応事例も増加した。また、中学生の学校見学も増加するなど、広報の成果が上がりつつある。 ①参加者昨年度比8名増 ②参加者昨年度比2名減 ③回答59% ④93回更新	A	全校保護者会等への参加者数は増加傾向にあるが、参加者の固定化が見られるため、新規参加者の開拓が課題である。 今後も魅力ある保護者会の実施に向けて、内容の充実及び広報に取り組む。 また、生徒入学後の中学校との協力・連携を深める。

学校関係者評価	
実施日	平成27年3月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>進路の手引の作成や、それら取組の成果を記録し、まとめることは、学校の進化の過程における教員の入れ替わり等に際し、組織的教育力の低下を防ぎ、進化を停滞させないという点で大変有効である。            今後も組織的・系統的指導体制の充実を図ってほしい。</p> <p>学習指導も含め、「社会的自立」に向けた教育活動が展開されていると思う。            来年度から18歳に選挙への投票権が与えられることに向け、「社会参加」ということを見据えた教育を展開してほしい。            また、生徒の学習機会の確保という面では、各種奨学金制度等を有効に活用してほしい。</p> <p>生徒たちが主体的に教室を清掃するなどの行動や意識が見られることは大変素晴らしい。            また、定時制の生徒もよく挨拶をする。日頃教員が実施している登校時の声掛け（あいさつ）指導等についても評価できる。シートに記載してもよい内容である。            今後も、OBの活用なども含めた多様な取組を一層充実させてほしい。</p> <p>保護者会等、学校に来る保護者が増えていることは、学校としての大きな進化である。            今後も、内容の工夫や情報の提供を通して、より多くの保護者の参加が得られるよう取り組んでほしい。</p>	